

## 平成26年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創立以来の「誠実・努力・奉仕」の校訓をもとに、地域に根差した教育を推進し、地域に信頼され、地域とともに成長する人格の育成をめざし、以下の点に重点をおく。

- 【全体】
- 1 規律ある生活態度を育成し、地域社会に貢献できる人材の育成をめざす。
  - 2 高い志や目標を持ち、自律してモラルある生活をおくりつつ誇りを持って生き抜くことができる人材の育成をめざす。
  - 3 心身ともに健康、明朗でたくましく、他者を理解し「心・技・体」のバランスのとれた人材の育成をめざす。
- 【体育科】
- 1 将来のトップアスリートはもちろん、スポーツの特性を理解し、生涯を通して積極的に行動できる人材の育成をめざす。
  - 2 ささまざまな体験を通して、積極的に企画・立案でき、行動力のあるリーダーの育成をめざす。
  - 3 スポーツを通して人間力を磨き、広い視野を持って人材育成を図ることができる人材の育成をめざす。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1)平成25年度の取り組みを継続しつつ、特に各教科で計画的に研究授業を実施し授業力を向上させる。その結果、授業アンケートにおける授業への興味・関心を持った割合については80%(平成25年度は73.7%)、知識・技能の習得できた割合については80%以上(平成25年度は76.1%)とし、平成28年度以降は85%を維持できるようにする。また、進度や難易度が適切であると考えられる割合と授業中に目標を明確にし、ポイントを押さえた授業ができているとする割合を85%とする。平成28年度以降は85%以上を維持する。

(2)総合的な学習の時間における内容について精査し、改善を加えながら授業規律維持に向けた早期の指導を徹底する。また、1年からのキャリア教育を推進し発展させる。この結果、授業アンケートにおける予習・復習をしているという自己評価を85%以上(平成25年度は78.9%)まで押し上げる。

※学校教育自己診断における入って良かったという割合を卒業年度には3年生の普通科・体育科とも85%以上にする。新入生についても80%以上にする。(平成25年度3年生普通科82.9%・体育科75%、2年生普通科83.6%・体育科52.5%、1年生普通科79.4%・体育科92.3%)※

(3)平成25年度に実施した総合的な学習の時間を振り返り、その反省を活かしながら、進路指導及びキャリア教育の充実を図る。また、進路指導部からの情報発信及び他分掌との綿密な連携を図り、進学意識の向上と進路情報の充実を図る。その結果、平成28年度までに5%以上ずつ上昇させ、80%以上にする。(平成25年度3年生普通科63.5%・体育科56.6%、2年生普通科77.1%・体育科57.6%、1年生普通科70.6%・体育科76.7%)

(4)補習を計画的に導入し、成績不振生徒に対する指導体制を強化する。学習と部活動の両方を持たせ、欠点保持率を低下させる。講習の在り方を再検討し、積極的に参加できる体制を構築し1・2年生は60%以上、3年生は65%以上の参加率をめざす。(平成25年度は3年生普通科57.2%・体育科42.1%、2年生普通科40.7%・体育科47.5%、1年生普通科28.3%・体育科53.2%)また、冬期には2年生対象に勉強合宿を行い、参加者数の向上をめざす。また、3年生の夏期にも学習会の実施を模索する。

※国公立合格者は10名以上、センター試験受験者100名、難関私大合格者の10%向上をめざす※

## 2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

(1)平成25年度の国際交流に関する取り組みを継続し、短期留学の相互交流を軌道に乗せる。参加希望者は50名(平成24年度は30名希望・17名参加、平成25年度は8名参加)程度をも込めるようにする。平成25年度にはオーストラリアからの留学生迎え入れを行ったが、隔年で行われるため、生徒の国際社会に対する生徒の意識向上を図るため、来日しない年度における交流推進策を新たに導入する。平成25年度から計画的に実施している月1度の国際交流会に関して、大学と連携を図りながら参加しやすい環境を作り出し、意識の向上を図るとともに、参加数の上昇をめざす。(平成25年度は12名参加)。

※英語検定受験者100名以上を維持し、合格率65%以上を目指す(平成25年度は受験者94名、合格率42.3%)。また、校内で英語スピーチコンテストを恒常的に実施する※

(2)オーストラリアからの迎え入れを機に行った英語プレゼンテーションコンテストについて、継続的に実施し、中学校との連携も意識して取り組む。

(3)体育科1期生の進路実績を分析し、更なる進路開拓を進める。また、進学に対して高い意識を持った生徒に対する指導体制を強化し、誰もが積極的に学習と部活動に取り組める環境を維持する。

(4)学力判定テスト導入から3か年が経過し、大まかなデータが揃った。今年度は更に分析を進め、本校生徒に必要な取り組みを進路指導部より主体的に提案し、実行する。また、全ての担当が学力分析システムを活用して保護者に情報提供できるようにする。結果として、平成28年度には生徒の基礎学力調査活用率は生徒・保護者とも65%以上をめざす。(平成25年度調査では、3年生普通科42.3%・体育科28.9%、2年生普通科49.8%・体育科27.5%、1年生普通科52.2%・体育科54.6%、保護者3年普通科60%・体育科60%、2年生普通科40.7%・体育科50%、1年生普通科46.7%・体育科43.8%)

(5)外部講師による講演等を増やし、さまざまな視点から将来を考える場を設ける。また、総合的な学習の時間の再構築2年目として、平成25年度に実施した内容の精査を行うとともに、平成28年度までには方向を確立し、誰もが取り組める内容にする。(平成25年度は1年生で社会人講話・ネットDV講演会、3年生で社会保険労務士による講演を実施)総合的な学習の時間を活用した全体講演会、オープンキャンパスの計画的実施、各大学教授等による講演を学期に1度程度は実施できるようにする。

(6)ボランティア意識の向上をめざし、生徒会活動を活発化するとともに、新しいボランティアの波を作り出す。(現在は地域清掃活動、エコキャップ運動、部活動による地域行事参加)そして、生徒会からの情報発信を推進し、活動の見える化を図る。

## 3 安全安心で魅力ある学校づくり

(1)人権教育充実を図るため、HR等を活用した人権学習を増加し、他者を理解する心を育成する。学校教育自己診断における人権教育に関する充実指導の割合を平成28年度には70%以上にする。(平成25年度は3年生普通科50.9%・体育科39.5%、2年生普通科51.5%・体育科37.5%、1年生普通科46%・体育科68.8%)

(2)平成25年度は問題事象が減少傾向にあるものの、ひとたび発生した事象は大きな事案になっている。また、交通事故も後を絶たず、自らの命を守ること、ルールを守ることの大切さを継続的に指導していく。そのうえで、学校教育自己診断においてモラルを持って行動しているという生徒の割合を3年時には95%以上にする。(平成25年度は3年生普通科85.1%・体育科96.1%、2年生普通科90.1%・体育科85%、1年生普通科86.4%・体育科89.6%)また、同時に生徒指導方針に共感できる割合も80%以上をめざす。(平成25年度は3年生普通科45.5%・体育科56.6%、2年生普通科49.8%・体育科50%、1年生普通科58.1%・体育科80.6%)また、平成28年度にはそれぞれ95%以上、80%以上を維持する。

(3)東海・東南海地震が叫ばれる中、自然災害に対する生徒の意識は低いままである。危機意識を喚起するためにも、地域と連携した防災訓練、総合的な学習の時間を活用した危機意識の向上を図っていく。学校教育自己診断における防災意識が向上した割合を70%以上にする。(平成25年度は3年生普通科45.1%・体育科39.5%、2年生普通科55.9%・体育科25.1%、1年生普通科42.7%・体育科58.5%)大災害発生時における教職員版危機管理マニュアルの改定を平成26年度に行い、現実的に実行できるようにする。また、保護者による緊急連絡網への登録率90%以上をめざす。(導入年度の平成24年度は52.4%の登録率、平成25年度は80%の登録率)

(4)校内における教育相談体制を更に充実させ、生徒の居場所を配慮した指導を行う。本校において教育相談体制が整っているという割合を80%以上にする。(平成25年度は3年生普通科54.9%・体育科32.9%、2年生普通科55.8%・体育科36.3%、3年生普通科51.9%・体育科53.3%)

(5)在校生の活動をHP上で広報し、進学を志す中学生に向けての広報活動をより一層推進する。各地域における学校説明会及び本校における学校説明会の見直しを図りながら、入学後に本校の取り組みを理解したうえで入学選抜試験に挑める中学生の増加をめざす。また、新入生において、中学校における学校説明会に参加したことがあるという割合を70%以上とする。(平成25年度は約5割)

## 4 体育科の更なる充実に向けた取り組み

(1)平成25年度までの人間力育成を基本として、更なる指導体制の強化を図る。また、体育科教員指導支援事業による授業内容の改善とよりよい方向性を探りながら、魅力ある体育科をめざす。(平成25年度は芦屋大学と高大連携協定を締結し、比嘉悟氏、上原光憲氏、柳本晶一氏を招聘した。また、大阪国際大学副学長川村幸治氏及び大阪教育大学教授土井秀和氏にも講演を頂いた)

(2)体育科2年生ではリーダー研修を通じて3年生になるきっかけ作りを行う。3年生では卒業後も多くの場面でスポーツに接することができるよう、マネジメント学を学ばせ、コミュニケーション力の育成を図る。平成25年度は、本校独自にマラソン大会を実施した。平成26年度は摂津市と連携した事業に発展できるようにする。平成28年度には、摂津市との協力体制を築き上げ、摂津高校発信のイベントとする。

(3)第1期生進路結果により、本校の体育科の取り組み等について透明性を持って提示する。平成26年度には、具体的な取り組みを在校生等に説明することで、生徒の意識改革を図る。そのうえで、体育科在籍生徒における進路指導が役立っているとする割合を80%以上にする。(平成25年度3年生体育科56.6%、2年生体育科57.6%、1年生体育科76.7%)

(4)適切な部活動指導を行い、全国大会へ出場する生徒の更なる増加をめざす。平成26年度には生徒が指導者として、子どもたちと接する場面を増やし、コミュニケーション力を育成しながら、平成28年度には地域総合型スポーツクラブとのつながりを確固たるものにする。(平成25年度は陸上競技部・水泳部で全国高校総体出場、陸上競技部が全国ジュニアユース大会出場)

## 5 キャリア教育の充実とモラルの向上

(1)平成25年度に再構築した総合的な学習の時間を更に推進させ、平成28年度には学校全体でキャリア教育が推進できるようにする。特に体験活動や社会奉仕活動などの回数を増加させ、高齢化社会の中にいる高校生の役割や地域における高校生の役割を認識させる。また、地域各施設への訪問を最低年1度行い、地域における高校生の役割を認識できるようにする。平成28年度には、各施設への訪問が年中行事として行えるような礎を作る。

(2)社会の一員であることを自覚し、清掃・美化に対する意識向上を図る。また、生徒会活動を活発化し、正門での挨拶運動や地域での清掃活動等を充実させ、主体的に行動し、結果として、学校教育自己診断における清掃活動や環境美化に力を入れていると考える割合を75%以上にする。(平成25年度は3年生普通科59%・体育科61.9%、2年生普通科67.1%・体育科57.6%、1年生普通科62.5%・体育科74.1%)

## 府立摂津高等学校

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>本年度も例年通りの時期に実施し、経年比較をしながら学校の状況変化を分析し、次年度に向けての取り組み重点を図る指標としている。結果については次の通りである。</p> <p>●摂津高校に入って良かったという割合について、今年度は体育祭の中止可否を巡り、悪いイメージを抱かれている。生活の中でのメリハリを考えながらの行事ではあるが、今後生活指導等の周知徹底を行うことで、生徒との間での違和感を無くしていく必要がある。その結果、2・3年生は低い数値となっている。1年生については80%以上の数値となっているが、賛否両論があると理解している。生徒と教師が連携かつ共通理解しながら、主体的にルールを守れるシステム作りが必要である。</p> <p>&lt;生徒&gt;現3年生普通科82.9%⇒61.9%(↓21)・現3年生体育科75%⇒75.3%(↑0.3)・現2年生普通科83.6%⇒65.5%(↓18.1)・現2年生体育科52.5%⇒89.3%(↑36.8)・現1年生普通科79.4%⇒82.0%(↑2.6)・現1年生体育科85.8%⇒88.6%(↑2.8)</p> <p>&lt;保護者&gt;現3年生普通科93.3%⇒84.3%(↓9)・現3年生体育科90.7%⇒95.7%(↑5)・現2年生普通科85.8%⇒86.1%(↑0.3)・現2年生体育科87.5%⇒93.0%(↑5.5)・現1年生普通科92.3%⇒90.8%(↓1.5)・現1年生体育科95.3%⇒91.8%(↓3.5)</p> <p>●進路指導が充実していると考えている割合は1年生では80%を超え、2年生でも体育科では70%を超えている。これは体育科卒業生を輩出したことにも関連していると考えている。普通科では依然低い数値であり、改善の必要性がある。保護者に関しては、概ね70%以上となっているが、今後の講習体制等課題も残っている。</p> <p>&lt;生徒&gt;現3年生普通科63.5%⇒62.4%(↓1.1)・現3年生体育科56.6%⇒61.6%(↑5)・現2年生普通科77.1%⇒58.3%(↓18.8)・現2年生体育科57.6%⇒73.3%(↑15.7)・現1年生普通科70.6%⇒76.6%(↑6)・現1年生体育科76.7%⇒87.3%(↑10.6)</p> <p>&lt;保護者&gt;現3年生普通科73.3%⇒69.9%(↓3.4)・現3年生体育科65.1%⇒73.9%(↑8.8)・現2年生普通科69.9%⇒77.1%(↑7.2)・現2年生体育科57.5%⇒77.2%(↑19.7)・現1年生普通科71.9%⇒81.1%(↑19.2)・現1年生体育科79.7%⇒79.6%(↓0.1)</p> <p>●講習に参加している割合は1年生と2年生体育科で上昇している。これは指名補習や考査前講習等の実施による効果と考えられる。3年生では低い数値であるが、進路希望が多岐に渡っていること、及び予備校へ通う生徒がいるため、学校の講習との共存が今後の課題であると考えている。また、3年生が部活動を引退するまでは、講習に参加しにくい状況にあることも確かである。</p> <p>&lt;生徒&gt;現3年生普通科56.0%⇒42.6%(↓13.4)・現3年生体育科57.2%⇒37.0%(↓20.2)・現2年生普通科40.7%⇒37.5%(↓3.2)・現2年生体育科47.5%⇒62.7%(↑15.2)・現1年生普通科28.3%⇒59.4%(↑31.1)・現1年生体育科53.2%⇒64.6%(↑11.4)</p> <p>●海外交流については、今年度は受入れの狭間であるため、ほとんどで下がっている。しかし、保護者の結果から概ね80%以上の支持があることから、今後も継続していきたい。1名の受入れもあったが、なかなか身近に感じられる機会が少なかった。</p> <p>&lt;生徒&gt;現3年生普通科65.8%⇒52.4%(↓13.4)・現3年生体育科50.0%⇒37.0%(↓13)・現2年生普通科58.4%⇒39.4%(↓19)・現2年生体育科51.3%⇒49.3%(↓2)・現1年生普通科55.2%⇒41.4%(↓13.8)・現1年生体育科61.1%⇒49.4%(↓11.7)</p> <p>&lt;保護者&gt;現3年生普通科88.4%⇒71.1%(↓17.3)・現3年生体育科93.0%⇒82.6%(↓10.4)・現2年生普通科86.8%⇒85.8%(↓1)・現2年生体育科87.5%⇒87.7%(↑0.2)・現1年生普通科87.9%⇒91.4%(↑3.5)・現1年生体育科95.4%⇒89.8%(↓5.6)</p> <p>●基礎学力調査の活用率については、進路がほぼ決まってくる3年生については、昨年同様活用率が低くなっている。反面1年生では結果の活用もあり、活用率が60%程度となっている。2年生では保護者の活用率が40%程度と、何か特別な仕組み作りが必要である。学年進行で新しい取り組みを始めた現1年生の伸びを注視しながら、今後の対策を練る必要がある。</p> <p>&lt;生徒&gt;現3年生普通科42.3%⇒37.6%(↓4.7)・現3年生体育科28.9%⇒28.8%(↓0.1)・現2年生普通科49.8%⇒37.1%(↓12.7)・現2年生体育科27.5%⇒52.0%(↑24.5)・現1年生普通科52.2%⇒51.1%(↓1.1)・現1年生体育科54.6%⇒64.6%(↑10)</p> <p>&lt;保護者&gt;現3年生普通科60.0%⇒45.8%(↓14.2)・現3年生体育科46.5%⇒43.5%(↓3)・現2年生普通科40.7%⇒46%(↑5.3)・現2年生体育科50.0%⇒40.4%(↓9.6)・現1年生普通科46.7%⇒57.8%(↑11.1)・現1年生体育科43.8%⇒61.2%(↑17.4)</p> <p>●総合的な学習の時間を活用した人権学習の効果もあり、1年生で数値が伸びている。特に体育科での数値の伸びが大きいのが特徴である。今後継続的に人権学習を行うことで、更なる飛躍が必要である。</p> <p>&lt;生徒&gt;現3年生普通科50.9%⇒42.1%(↓8.8)・現3年生体育科39.5%⇒39.3%(↓0.2)・現2年生普通科51.5%⇒42.1%(↓9.4)・現2年生体育科37.5%⇒69.3%(↑31.8)・現1年生普通科46.0%⇒49.3%(↑3.3)・現1年生体育科68.8%⇒76.0%(↑7.2)</p> <p>&lt;保護者&gt;現3年生普通科63.3%⇒54.2%(↓9.1)・現3年生体育科62.8%⇒69.6%(↑6.8)・現2年生普通科57.5%⇒57.4%(↓0.1)・現2年生体育科60.0%⇒70.2%(↑10.2)・現1年生普通科59.4%⇒62.2%(↑2.8)・現1年生体育科68.8%⇒81.6%(↑12.8)</p> <p>●モラルを持って行動しているという生徒の割合は、体育科で90%以上の数値となっている。普通科でも85%程度の数値となっており、意識して行動できる生徒の割合が増えつつある。更に向上していく必要性を感じる。</p> <p>&lt;生徒&gt;現3年生普通科85.1%⇒83.7%(↓1.4)・現3年生体育科96.1%⇒91.8%(↓4.3)・現2年生普通科90.1%⇒83.7%(↓6.4)・現2年生体育科85.0%⇒94.7%(↑9.7)・現1年生普通科86.4%⇒85.6%(↓0.8)・現1年生体育科89.6%⇒98.7%(↑9.1)</p>	<p>【第1回(5/29)】</p> <p>○<u>学校経営計画について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度との変更点を確認・・・公開授業、朝の小テスト、自習室の開放、成績不振者に対する指名補習、国際交流受入れ、生徒会中心のボランティア活動、進路指導充実、夏期学習会、人権意識向上、消防署等との連携避難訓練、体罰・いじめ等への取り組みについて説明</li> <li>・地域連携事業として企画している体育科主催イベントも地域の防災訓練等と連携することで可能になるかも知れないため、今後協力体制を築きたい。</li> <li>・地域貢献として、地域のお年寄りに対する声掛け運動等への協力も依頼された。(今後検討事項)</li> </ul> <p>○<u>各分掌より</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部へ土曜日授業の実施について質問を受け、講習等を実施はしているが、授業を実施するには代休日の設定等など課題があり、公開授業等として実施するに留まっている。</li> <li>・生徒指導部より阪急摂津市駅前の道路について、一般市民が横断をしているので、なかなか注意できない状況であることを説明し、理解して頂いた。</li> <li>・進路指導部に対し、主に奨学金に関する質問を受けた。浪人生が多いことについて、高い目標を持って浪人した割合が多い現状を説明。大学入試に向け、奨学金の現状を問われ、入学金等には間に合わないことを説明していることを伝えた。また、一般入試の合格率向上に向け、大学入試の現状と本校の状況を説明した。大学入試合格試験受験者については、42名が受検したが、数が少ないことに対して意見を頂いた。</li> </ul> <p>○<u>体育科について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー部や陸上競技部所属生徒の現状を説明し、その数の多さを指摘して頂いた。現状として指導者不足が大きな問題であることも説明した。</li> </ul> <p>○<u>国際交流事業について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・費用について説明を求められ、本年度は23万円程度であり、現地費用は全ておファミリー負担であることを説明した。また、留学することができることを聞き、摂津高校を受験した生徒がいることも説明した。</li> <li>・時差が少ないため、SKYPEやテレビ会議などを活用した授業実践について提言を頂いた。</li> </ul> <p>【第2回(9/25)】</p> <p>○<u>学校経営計画進捗状況について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな取り組みについて状況を説明し、協議員から現状の達成状況を求められ、50%程度の達成状況であることを伝えた。また、指名補習、自習室開放、生徒会と生徒指導部連携事業、夏期学習会、防災関連事業、体育科の取り組みについて詳細を説明した。</li> </ul> <p>○<u>各分掌からの報告</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健部より、防災訓練、鳩の被害、性感染症講演会、薬物乱用防止教室、保健室来室者、インフルエンザの状況等について説明した。その中で、保健室に来室する生徒に関する質問があった。担任との連携については、必ず行いが、生徒個人の力を損ねないような配慮を行っていることも説明した。また、デートDVに関する講演について、人権的な視点が大きいことを指摘頂いた。</li> <li>・生徒会特活部より、体育祭での事案や文化祭のことについて説明した。特に体育祭については、例年通りの実施なのか、という点について指摘頂き、取り組みに対して理解を頂いた。</li> <li>・総務部より、現状の取り組み状況を説明。PTA、式典、奨学金、国際交流等多岐に及んでいることを理解して頂いた。</li> </ul> <p>○<u>授業アンケートについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助教材の活用、生徒意見の反映に関しては、生徒からの評価が低かった。また、評価方法について、新しい観点での分析方法を示唆して頂いた。</li> </ul> <p>○<u>生徒実態調査について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂津高校に入学してよかったという数値が低くなっている現状について、体育祭実施直後の調査であったため、マイナス部分が反映している結果であることを説明した。</li> <li>・スマートフォンの割合が急上昇しているため、今後活用に関して対応が必要であることを示唆して頂いた。</li> </ul> <p>○<u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は授業に集中しているが、先生に対して不満を持っている割合が多くなっている。特に社会、理科、英語が低いので、この点を慎重に分析する必要がある。</li> <li>・スマートフォンの活用はLINEでの活用が多く、これらが問題になっている点是对応が必要である。</li> <li>・部活動が盛んであることはいいことであるので、今後も方向性は維持してもらいたい。</li> <li>・きちんとした学校であると思うが、地元中学生からイメージしにくい学校であるのも確かである。体育科が設立されてから男女比も大きく変わったが、これらの点について対応が必要である。</li> </ul> <p>【第3回(1/21)】</p> <p>○<u>学校経営計画 自己評価について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として、目標指標があり、そこに向けて100%達成しているかで判断している。各項目に記載されている◎(上回っている)、○(概ね達成)、△(達成していない)の指標については納得されていた。指標に到達していないものは△となっている。</li> <li>・大まかには理解されている。</li> </ul> <p>○<u>授業アンケート結果について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおまかには3.0付近の数値であるので、標準的ではあるが、2学期に結果が上向かないところがある。教材の活用に関しても、使用している科目としていない科目でバラツキがあるため、一様に判断するのは難しい。</li> <li>・結果の数値は先生各個人の努力に依存しているところが大きいと思うが、今後新しい研修等を進めていくのもいいのではないかと。</li> <li>・遅くまで教材研究しながら準備をされているとは思いますが、大学でもアクティブラーニング等が取り入れられ、生徒の活動重視に変化しているので、高校でもアクティブラーニングの研修などをして、よりよい方向に持っていったらいいのではないかと。</li> <li>・授業アンケートの項目以外にも、先生方のニーズにこたえられるようなアンケートを実施して、実態を把握することもできるのではないかと。</li> </ul> <p>○<u>学校教育自己診断結果について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂津高校に入学してよかった、生徒指導の方針に共感できる、学校行事は学校生活を充実させるものになっているという項目については、全体的に同じような傾向にあり、3年生で極端に低くなっている。原因を特定していくことも必要で、学校教育自己診断だけではなく、個々にアンケート項目を考えて、</li> </ul>

## 府立摂津高等学校

<保護者>現3年生普通科91.7%⇒84.3%(↓7.4)・現3年生体育科90.7%⇒91.3%(↑0.6)・現2年生普通科84.9%⇒91.2%(↑6.3)・現2年生体育科97.5%⇒96.5%(↓1)・現1年生普通科88.5%⇒95.7%(↑7.2)・現1年生体育科96.9%⇒100%(↑3.1)

●生徒指導方針に共感できるという割合は、体育祭の実施可否に関連して低い数値となっている。昨年度までの流れもあるが、守るべきことをしっかり守りながら行事等を行う、メリハリの意識とルールを守れる人間育成を含め、生徒会等とも連携しながら、主旨徹底を行いながら主体的に行動できるような意思統一が必要である。

<生徒>現3年生普通科45.5%⇒41.1%(↓4.3)・現3年生体育科56.6%⇒49.3%(↓7.3)・現2年生普通科49.8%⇒43.2%(↓6.6)・現2年生体育科50.0%⇒77.3%(↑27.3)・現1年生普通科58.1%⇒55.0%(↓3.1)・現1年生体育科80.6%⇒82.3%(↑1.7)

<保護者>現3年生普通科75.0%⇒36.1%(↓38.9)・現3年生体育科58.1%⇒67.4%(↑9.3)・現2年生普通科58.4%⇒56.1%(↓2.3)・現2年生体育科77.5%⇒82.5%(↑5)・現1年生普通科75.2%⇒64.9%(↓10.3)・現1年生体育科79.7%⇒75.6%(↓4.1)

●防災意識が向上したと考える割合は、1年生で上昇している。2・3年生では現状維持もしくは低い数値となっているが、同じような内容となることで致し方ない点もある。今後、消防署等と更に連携して、飽きの来ない、また現実的に活用できる防災訓練を実施して行きたい。

<生徒>現3年生普通科45.1%⇒50.0%(↑4.9)・現3年生体育科39.5%⇒35.6%(↓3.9)・現2年生普通科55.9%⇒42.1%(↓13.8)・現2年生体育科25.1%⇒60.0%(↑34.9)・現1年生普通科42.7%⇒52.9%(↑10.2)・現1年生体育科58.5%⇒69.6%(↑11.1)

●緊急連絡網への登録率に関しては、アンケート回答者で見ると大きく上昇した。さまざまな連絡や台風等の連絡で活用したことも要因と考えている。今後、防災意識の向上を図る意味で、更なる登録率の上昇と登録の価値を見出していきたい。

<保護者>現3年生普通科69.1%⇒84.3%(↑15.2)・現3年生体育科67.5%⇒93.5%(↑26)・現2年生普通科75.5%⇒89.2%(↑13.7)・現2年生体育科80.6%⇒89.5%(↑8.9)・現1年生普通科82.7%⇒84.9%(↑2.2)・現1年生体育科94.2%⇒87.8%(↓6.4)

●教育相談体制が整っていると考えている割合は概ね上昇している。3年生では低い数値となっているが、問題を多く抱えている生徒が少ないという現状も低い数値に現れている。今後も機会を設けて更なる向上をめざす。

<生徒>現3年生普通科54.9%⇒40.1%(↓14.8)・現3年生体育科32.9%⇒42.5%(↑9.6)・現2年生普通科55.8%⇒45.8%(↓10)・現2年生体育科36.3%⇒58.7%(↑22.4)・現1年生普通科51.9%⇒55.0%(↑3.1)・現1年生体育科53.3%⇒68.4%(↑15.1)

<保護者>現3年生普通科66.7%⇒49.4%(↓17.3)・現3年生体育科60.4%⇒65.2%(↑4.8)・現2年生普通科54.9%⇒58.8%(↑3.9)・現2年生体育科60.0%⇒73.7%(↑13.7)・現1年生普通科53.3%⇒60%(↑6.7)・現1年生体育科64.0%⇒75.5%(↑11.5)

●ボランティア活動や地域に貢献する活動を行っていると考えている割合は、大きな飛躍は見られなかった。微増している学年もあるが、何がボランティアであるかを理解せずに活動していることもある。したがって、一概に数値が全てを表現しているとは言えない。今後は、行っているボランティア活動が「当たり前」のものであるという認識に立てる人材育成をめざす。

<生徒>現3年生普通科31.5%⇒35.2%(↑3.7)・現3年生体育科26.3%⇒26.0%(↓0.3)・現2年生普通科44.6%⇒22.7%(↓21.9)・現2年生体育科25.1%⇒45.3%(↑20.2)・現1年生普通科42.7%⇒33.1%(↓9.6)・現1年生体育科45.5%⇒55.7%(↑10.2)

<保護者>現3年生普通科31.7%⇒15.7%(↓16)・現3年生体育科23.3%⇒37%(↑13.7)・現2年生普通科38.0%⇒28.4%(↓9.6)・現2年生体育科30.0%⇒36.8%(↑6.8)・現1年生普通科33.5%⇒38.9%(↑5.4)・現1年生体育科32.8%⇒40.8%(↑8)

●清掃活動や環境美化に力を入れている生徒の割合は、全般的に数値が上昇した。渡り廊下のペンキ塗り等もあり、少しでも校舎清掃を心掛けようとする意識が芽生えはじめている。これらの意識が継続できるようにしたい。

<生徒>現3年生普通科59.0%⇒56.9%(↓2.1)・現3年生体育科63.0%⇒69.9%(↑6.9)・現2年生普通科67.1%⇒53.0%(↓14.1)・現2年生体育科57.6%⇒74.7%(↑17.1)・現1年生普通科62.5%⇒69.1%(↑6.6)・現1年生体育科74.1%⇒92.4%(↑18.3)

<保護者>現3年生普通科46.7%⇒42.2%(↓4.5)・現3年生体育科48.9%⇒47.8%(↓1.1)・現2年生普通科48.7%⇒58.8%(↑10.1)・現2年生体育科40.0%⇒64.9%(↑24.9)・現1年生普通科56.6%⇒59.5%(↑2.9)・現1年生体育科57.9%⇒69.4%(↑11.5)

細かい分析をすすめることも必要である。

・個別の意見では、やはり体育祭に関する項目が多く、学校としてどうやって保護者の行事に対する不安を払拭するかも課題である。生徒・保護者が学校の方針を共通認識できるように、情報発信の方法や場合によっては、各行事で方針をプリントで配付し、保護者に確認の捺印をしてもらうことも必要ではないか。連携できる方策について考えていく必要がある。

・生徒と保護者の考え方について、まったく異なる結果になっているものがある。その原因分析も必要である。

## ○各学年より○

・1年生より在籍及び指導方針について確認した。その中で、学力判定テストを活用した指導事例や遅刻指導の事例について理解して頂いた。

・2年生より特に修学旅行のアンケート結果について、8～9割の生徒が良かったと言っている状況を説明し、認識して頂いた。

・3年進路状況について、概ね4分の3の進路が決定した旨の報告をした。規律面では遅刻が非常に多く、課題が残っているのも確かであることを認識して頂いた。

## ○その他○

・平成27年度学校経営計画策定に向けて、次のような意見があった。

★40年以上の歴史があるので、1期生の苦労は今の私たちが聞いても面白い。であれば、入学してくる生徒に同窓生の苦労や培ってきた伝統について話をしてもらう機会を設けてもいいのではないかと。将来について考えるために、職業人としての同窓生を迎えて話をしてもらうのもいいが、異なる視点から、生徒が主体的に行動するヒントになると思う。

★携帯連絡網などについては、配信の期間が空くと、登録が上手くいっているのかどうか不安になる。対策として、毎月定期的に発信する日を決めて学校情報を流すなどの方策もある。ただ、担当する人は大変だと思うが、その分携帯連絡網の意義も出てきて、登録数もあがるのではないかと。

★教員の年齢構成バランスの悪さもあるかも知れない。この点をクリアにするために、教員アンケートに創意工夫を凝らして実施してみてもどうか。

※第3回は約2時間の話し合いの中で、傍聴者も2名いた。今後、平成27年度学校経営計画策定に向けて、更なる原案を作成し、意見を頂戴く方向でまとめられた。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 授業力、学力の向上 ア 各教科で各学期に1度研究授業を行う。	(1) ア 全ての教科で学期に最低1度は研究授業を行い、授業改善を行う。その際、全ての教科による研究協議を行う。年間3回の公開授業を設け、他教科との協同で授業力を向上する。最低でも各教科で学期に1度は研究授業を行う。摂津市の他校種への公開授業案内も行き、参加を促す。	(1) ア 授業アンケートにおける授業理解度及び満足度の5%向上をめざす。同時に、2度目のアンケート結果を向上させる。摂津市内他校種からの参加者を増やす。(平成25年度は参加者0)	(1) ア 各学期における研究授業では、全ての教科で1回ずつの研究授業を実施し、昨年はなかった摂津市や他校からの参加もあった。また、摂津市教育委員会への研究授業にも出向き、活発な意見交換ができた。しかし、5%以上の向上はなく、3学期も数値が下がった。(○)
	イ 週に2度朝の小テストを実施する	イ 授業規律及び遅刻のない生活により学力向上を図るために、朝に週に2度の小テストを実施する。このことで、基礎的な力を養うとともに、落ち着いた雰囲気での授業に向かう姿勢を養う。	イ 遅刻数については、平成25年度訳4500の遅刻数を3000以下にする。また、小テストにより欠点者の10%減少と授業満足度を5%上昇させる。	イ 2学期末までで全学年で2530件の遅刻があり、3000以下の遅刻数達成は厳しい状況にある。また、小テストについても時間割の関係で実施が厳しく、今年度は2学期末から1年生対象の英語リスニング放送を朝に放送するにとどまった。欠点者数については、2学期末で昨年度325名が266名となり10%以上減少した。(△)
	ウ 総合的な学習の時間及びHRを活用した学び方指導の実施	ウ 総合的な学習の時間を活用し、各考査終了後に5回学びの再点検を行い、授業に対する姿勢を養う。この際、授業を受ける姿勢、ノートの取り方、家庭に対する課題等を課し、家庭学習時間の確保を図る。	ウ 自ら取り組む割合の5%向上及び授業規律の徹底を図る。	ウ 1年生において、学力判定テストを活用して学びの再点検を実施し、授業に対する姿勢を確認した。また、考査前には学習計画書の提出を行い、家庭学習に対する姿勢を確認させた。自ら取り組む割合は平成25年度の78.9%に比べ、1学期81.2%・2学期81.5%とやや向上した。(△)
	エ 新学習指導要領に対応した授業実践の推進	エ 各教科で言語活動の充実を図りながら、より生徒が主体的に授業に参加できる授業改善を図る。このことで生徒の学びの向上をめざす。また、各教科におけるグループワークや発表を伴う授業を増加させ、生徒が意欲的に参加できる授業を増やす。	エ 授業に積極的に参加している生徒の割合及び満足度・授業理解度5%向上をめざす。	エ 各教科でのグループワークや言語活動の充実に向けた取り組みは少しずつ進んでいる。総合的な学習の時間を中心としながら、発表の機会を設けることで、積極的に発言できる姿勢は構築されつつある。授業理解度は74%⇒79%となった。(○)
	(2) 補習・講習等の充実 ア 成績不振者に対して補習を実施する	(2) ア 各考査における成績不振者に対して、一定期間17:00まで補習を課し、苦手教科の克服を図る。また、考査期間中にも補習を積極的に行い、学習と部活動との両立を図る。	(2) ア 欠点保有生徒の半減と、学ぶ意識の向上を図る。	(2) ア 欠点保有者の数は昨年度325名から266名と減少した。2学期中間考査終了より各教科から成績不振者を抽出し、17:00までの指名補習を開始した。部活動とも連携でき、苦手克服の一助とすることができた。欠点保有者については半減とまでは行かないものの、各学年ともに減少した。特に1年では半数近くになった。(○)
	イ 土曜日に補習・講習を設定する	イ 土曜日の午前と午後に講習・補習時間を設定し、部活動参加者に対する学習の習慣化を図る。また、講習に参加することで、成績上位層の更なる向上と成績下位層の底上げを図る。また、大学インターンシップ等で連携し、生徒の学習環境整備を図る。	イ 学習に対する意欲を向上させ、講習参加率の向上を図る。また、上位層の学力向上を図り、積極的に講習に参加する生徒の割合を5%向上させる。	イ 土曜日に数学における講習を開始し、部活動参加者も一部の参加を見込むことができた。また、考査前には放課後講習を実施し、苦手克服を図ったが、定着にはまだ時間を要する。講習参加率は1年生で60.5%、2年生は43.1%と向上が見られた(特に1年及び2年体育科では60%超が参加)。更に参加を促す方策が必要である。(△)
ウ 自習室の開放による自学環境の整備	ウ 自習室を放課後、一定時間開放し、自ら学習に取り組もうとする生徒の援助を行う。また、全教職員協力のもと、指導体制を維持し、自ら学校で学ばせる機会を確保する。	ウ 補習・講習が充実しているという割合の5%向上をめざす。また、自学の意識を芽生えさせる。	ウ 自習室については、考査前の放課後及び土曜日に開放した。活用する生徒はまだ多くはないが、増えつつある。同時に自習室の整備を行うことで、環境整備を図った。結果として講習・補習が充実している割合は1・2年生で5%以上向上した。(○)	
エ 考査前週間の部活動体制の再編と学習環境の整備	エ 考査1週間前の部活動実施時において、学校での学習環境を整備し、学びあいによる相乗効果による学力の向上を図る。部活動後には学びあいの機会及び場を設定し、協同による学力向上を図る。	エ 欠点保有者の半減及び意欲的に学習・部活動に参加する生徒の割合を向上させる。	エ 考査前には図書室を自習室として設定し、複数名の学習が見られた。部活動後における学びあいの場については、まだ時間を要するが、意識は少しずつ向上しつつある。欠点者も上述通り減少している。(△)	



府立摂津高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立</p>	<p>(1)国際交流事業の定着 ア 隔年実施の国際交流受入れの充実</p>	<p>(1) ア 受入れ事業に関しては、平成 26 年度は来校しない年にあたるため、生徒の高い交流意識を維持するため、同年代の受入れ方法を検討し、国際交流ターを設け、交流の芽を絶やさないようにする。ESS 同好会や海外短期留学で派遣する生徒に対して、SKYPE を用いたリアルタイムの交流を月に数回程度行い、積極的な姿勢を養う。</p>	<p>(1) ア 国際交流事業に対する肯定的な意見を 5%向上させる。</p>	<p>(1) ア 今年度 1 名の受入れを行った。3 年生クラスでの受け入れで、約 2 週間に及ぶものであったが、授業・放課後の部活動等で交流を深め、刺激を受ける生徒も見られた。しかし、昨年の印象が強く肯定的意見は減少し、生徒平均で 45%、保護者で 85%程度であった。SKYPE や ESS 同好会での活動の向上は今一歩であった。(△)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>昨年度が留学生受入れ年であったため、今年度は交流という面で意識が低くなったのは致し方ない。来年度は再び受入れ年になるため、更なる向上は見込める。</p> </div>
	<p>イ 海外短期留学生の内容充実</p>	<p>イ 2 年間実施により方向性は確認できたが、自主性に関しては踏み込んだ指導が必要となる。指導体制の見直しを図り、連携協定を結んでいる学校との間で実習内容の再構築を図る。3 年目の取り組みとして、実施している内容の精査を行い、アンケート結果から「楽しかった」「行ってよかった」と思える企画とし、次年度以降に参加を希望する生徒に対し、新しい道筋を作り出す。</p>	<p>イ 校内での参加希望者 20 名を維持し、アンケート結果でも 90%以上が納得できるものとする。</p>	<p>イ 21 名の応募があり、16 名が参加をした。アンケート結果では参加した生徒全員がよかったと言っていた。実施内容についても精査し、今年度よりオーストラリア文化を学ぶ時間を設けた。ゲームや食文化について学んだ。交流内容についても 100%の参加者が満足していた。(○)</p>
	<p>ウ 校内における指導体制の構築</p>	<p>ウ 平成 26 年度海外派遣事業終了後に、平成 27 年度に向けての派遣希望者を募り、継続した指導を実施する。また、月 1 度実施している国際交流会についても ESS 同好会や高大連携を推進し、より身近なものにする。9 月より計画的に英会話等のレッスンをを行い、モチベーションの維持を図る。また、英語コミュニティーを充実させ、国際色を豊富にする。</p>	<p>ウ 英語コミュニティーの授業や放課後での活用率を利用率を向上させる。(平成 25 年度は第 2LAN としての活用が主であった)9 月の参加希望者も、概ね 20 名程度を維持できるようにする。</p>	<p>ウ 英語コミュニティーを再編整備し、今後活用について検討している最中である。また、9 月から次年度へ向けて短期留学の募集を行ったが、積極的な応募はなかった。口々には行きたいという言葉は耳にするが、1 年以上先のことであるため、応募には至らないケースとして認識している。(△)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>9 月募集については、翌年度への意識も低く、また交流生徒も 1 名の受入れであったため、高まりは期待できなかった。来年度 4 月の募集時で、再度向上を図る。英語コミュニティーでは SKYPE 等の設備も整え、活用できる状況になった。</p> </div>
	<p>エ レジテーションコンテストの継続と中学校との連携推進</p>	<p>エ 平成 25 年度に実施したレジテーションコンテストを継続実施し、その位置を確立するとともに、中学校と連携した事業となるように、連携協力を推進する。その中で、高校部門及び中学部門を設定し、地域による英語力の向上を図る。10 月及び 1 月末に行ったレジテーションコンテストを精査し、1 年から 3 年まで実施できる内容に構築する。また可能な範囲で摂津市内の中学校とも連携できるようにする。</p>	<p>エ 2 月には新しいコンテストの形を見出し、中学生の参加等を実施する。</p>	<p>エ 2 月にレジテーションコンテストを継続実施し、摂津市教育委員会を通じて見学依頼を发出する。また、レジテーションコンテストへ向けて、朝の時間帯に校内放送で意識の向上を図っている。(○)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>事前準備として朝の放送によるヒアリングを実施したが、半数の生徒が視聴し、効果が上がった。今後、朝の時間の活用も含めて検討していく必要がある。</p> </div>
<p>(2)生徒会活動の活性化 ア 部活動予定及び結果の見える化</p>	<p>(2) ア 各種部活動の予定及び結果について掲示板等への掲出はもちろん、全校生徒で応援できる体制を作り出す。その結果、全生徒で部活動結果等の共有を図る。生徒会が積極的に部活動の予定や結果を収集し、体育館下に掲示することで、学校全体として部活動生徒を応援する下地を作る。</p>	<p>(2) ア 生徒会活動の活性化(生徒会通信の増刷)を図り、生徒会主催の取組みを 1 割増やす。特に 11 月以降の活動実績向上を図る。(平成 25 年度は 11 月以降は数枚の生徒会通信発行にとどまる)</p>	<p>(2) ア 生徒会主催として、校内廊下の塗装(12 月 22 日実施)、朝の挨拶運動(2 学期より)を実施した。また、各種学校説明会に生徒会が主体的に参加し、説明を行った。1 月の個別相談会等でも生徒会が説明にあたり、同時に本校リーフレット作成も生徒会と総務部が連携して行っている。実質、2 学期の活動は昨年度に比べて倍増している。年度末には生徒会通信等の WEB 上での発行も見込んでいる。(△)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>後期生徒会については、正門の挨拶運動、リーフレット制作、学校説明会への参加、渡り廊下のペンキ塗り等昨年より活発に活動している。今後も、生徒会発信の取り組みを増やしていきたい。</p> </div>	
<p>イ ボランティア活動の見える化を図る</p>	<p>イ 日頃ボランティアを感じずに行っている行為を尊重しながらも、その結果について定期的に生徒会から発出し、ボランティア活動の見える化を図る。また、学期に 1 度はボランティアター等を設け、生徒会が主体的に活動する。また、摂津市で募集しているボランティア活動に関する呼びかけを進め、生徒会自らが参加できるようにする。意識しないボランティア活動の見える化に向けては、エコキャップ運動による結果を定期的に公表し、更なる協力体制を構築する。</p>	<p>イ 生徒会のボランティアへの参加数が増え、同時に生徒会通信の増刷を図る。また、ボランティアを積極的に行っている割合については 10%向上をめざす。</p>	<p>イ 生徒総会においてエコキャップ活動の状況を報告したが、ボランティアを行っているとする意識の生徒平均は 30%強で留まっている。ただし、体育科では 10~20%意識が向上した。また、新たなボランティア活動として校内ペンキ塗りを実施したが、保護者の参加もあり、主体的な参加者も 50 名程度であった。(△)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ボランティア活動については強制力のあるものではないため、向上は難しいが、反面ボランティアと意識せずに行っているものも多数あるのも事実である。次年度以降、数値向上以上に当たり前に行っているボランティア活動の充実を図りたい。</p> </div>	
<p>ウ 挨拶運動、清掃活動の充実</p>	<p>ウ 生徒会自らが朝の挨拶運動を行うことで、どんな場面でも挨拶ができる体制を作り、地域からも明るく愛される学校を目指す。同時に、教職員も朝の正門における挨拶を積極的に実施する。また、清掃チェック体制を生徒会発信で行い、生徒全員が学校を綺麗にし、維持する意識を確立する。PTA とも連携して、年に数度は保護者・教員がともに清掃活動を行う。</p>	<p>ウ 学校が綺麗になったとする割合の 10%向上と PTA の学校教育活動への参加率の 5%向上をめざす。</p>	<p>ウ 挨拶については、ほとんどの来校者が好意的に理解して頂いている。また、生徒会が朝の挨拶運動を行うことで、生徒の意識に変化が生じ、教員だけでは服装を正せなかった生徒も、生徒会の声かけで直すようになってきている。清掃活動についても生徒会で PR を行いながら、今年度は PTA と連携して渡り廊下のペンキ塗りを行い環境整備を行った。清掃意識は 2・3 年平均では 58%程度で意識しているが 1 年では 75%程度が意識して清掃している。特に各学年体育科生徒は平均で 10%程度の意識向上が見られた。(○)</p>	

府立摂津高等学校

	<p>エ 生徒の主体的活動による生活改善</p>	<p>エ 生徒会が主体的に活動し、生徒総会等を通じて、制服業者の思いや生徒の思いを在校生に投げかけ、主体的に服装違反や頭髪違反に対して働きかけを行い、生活しやすい学校環境を作り出す。朝の正門指導も教職員とを行い、生徒自らが学校環境改善に乗り出す。</p>	<p>エ 生徒会主導の活動を生徒指導部とともに行うことで、本校の生徒指導に共感できるとする割合の10%向上を図る。また、遅刻数減少を図る。</p>	<p>エ 制服の着こなしについては、生徒会通信を活用して全校掲示を行い、各種行事における頭髪や服装違反の是正に対しても、生徒会通信を活用して行った。ただ、一部には依然として規範を守れない生徒もおり、今後の課題が残った。遅刻については、教員の立ち番や生徒会の挨拶運動が連携し、目標には達しないまでも減少傾向にある。体育祭の実施可否の問題等もあり、平均で共感できる割合は減少した。(△)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>体育祭の実施可否を巡る事案であったため、全般的に低い数値となっている。今後、指導方針の徹底と連携を意識して、メリハリのある指導を行っていく。</p> </div>
<p>2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立</p>	<p>(3) 進路実現への主体的な取り組み ア 学力判定テストの活用</p> <p>イ 各種検定の充実</p> <p>ウ 学習会の実施</p> <p>エ 進路情報の積極的な発信</p>	<p>(3) ア 学力判定テストの意義について積極的に進路指導部からの投げかけを行い、担任が積極的に活用できるスペースを確保し、きめ細やかな指導を行う。また、保護者への学力判定テストの結果を情報発信することで、生徒・保護者との共通の話題とすることで、進路への意識付けを行う。また、核となる進路指導を行った際には積極的にHPに情報を掲載し、進路情報の発信に努める。</p> <p>イ 英語検定の受検を積極的に働きかけ、部活動と連携しながら、積極的に受検させる。そのために、年間計画の中に英語検定を入れ込み、受検へ向けた意識向上を図る。また、指導体制を構築し、合格率を上げることで生徒に達成感を与えさらなる意欲向上を図る。</p> <p>ウ 2年生の冬休みに実施している冬期学習合宿を発展させ、夏休みに3年生対象の学習会を実施し、受験に向けて更なる意識の向上を図る。また、取り組み方を学ばせることで、高い目標を持って受験に向かう姿勢を養う。</p> <p>エ 定期的に進路通信を発行するとともに、生徒配付と同時期にHPに情報を掲載し、リアルタイムで情報を共有できるようにする。</p>	<p>(3) ア 担任の学力判定システムの活用実績向上を図る。進路情報が的確に伝わっているとする割合の5%向上を図る。</p> <p>イ 平成25年度94名の受検から100名以上の受検かつ60%以上の合格率をめざす。</p> <p>ウ 平成25年度2年実施時の参加者11名から3年夏休み実施時には40名参加へと向上させる。また、2年生冬休み実施に関しては、学習合宿として元に戻し、50名規模の参加を図る。</p> <p>エ 進路情報が的確に発信され、伝わっているとする割合の5%向上を図る。</p>	<p>(3) ア 進路指導部が主体的に情報を発信し、学習合宿等でも参加生徒の情報を共有できるようになった。学力判定システムの活用については、担任から保護者への情報伝達に留まり、進路指導部からの積極的な情報発信には至っていない。しかし、活用率は1・2年で向上し、特に1年生では10%以上活用率が向上した。また、進路指導部主催行事等については、核となる取り組みはHPで状況を発信できている。(○)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>担任による指導の差異が少なくなるように、進路指導部が主体的に情報発信を継続し、同じ視点で生徒に指導できるようにする。</p> </div> <p>イ 受検者は年間125名にのぼった。合格率は2学期末までで、41.1%と大幅な伸びとはならなかった。ただ、受検しようとする意識の向上は見られた。(△)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>合格率向上に向けて、今後講習の充実などの対策が必要である。英語レクレーションコンテストなどと連携しながら、対策を講じたい。</p> </div> <p>ウ 今年度より夏休みに3年生対象夏期集中講座を開催し、40名の参加があり、2年生対象の冬の学習合宿も18名が参加した。学習合宿に関しては修学旅行明けの間もない時期の実施であり、かつクリスマスを絡めた日程になったが、意欲的に生徒が参加した。人数的には目標に達しなかったが、参加生徒が今後クラスに戻り、自学自習の体験を語ることで、受験への道を開くことを期待したい。(○)</p> <p>エ 定期的な進路通信は発行しているが、発行時期の連携が上手にいかずリアルタイムでの情報提供までは至らなかった。しかし、進路指導の充実に関しては、1年80%、2年77%、3年70%で肯定的な意見であった。また、各学年では3年で数%、1・2年で10%以上向上した。(△)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>HPのブログへのアップを早急に行うことで、生徒・保護者へのリアルタイム情報発信とできるようにする。</p> </div>

府立摂津高等学校

<p>3 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1)人権意識 ア 人権教育のHRでの系統立てた指導</p> <p>イ 障がいのある人による講演から学ぶ取組の実施</p>	<p>(1) ア HRの中で系統的に人権について考えることで、ともに学ぶ意識の高揚を図る。最低でも学期に1度は人権について考える場を設ける。</p> <p>イ 障がいのある方に携わっている方からの講演や実習等を通して、互いに認め合うことの大切さを学ぶ。また、体験活動を通して障がいのある方にとって大切なことは何かを学び取る。</p>	<p>(1) ア 人権意識が高まったとする割合の5%向上を図る。</p> <p>イ 人権意識が高まったとする割合を5%向上させる。</p>	<p>(1) ア 各学年での人権集会やHRが増加し、計画性を持って人権研修を行った。また、3年生では2学期に人権集会を、1年生も1月に人権講演を実施し、意識の高揚を図った。人権意識が高まったとする割合は1年55%、2年48%、3年41%と低いまだが、1・2年では5%向上、3年生では数値低下が見られたが、全体的な取り組みは向上している。(△)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>平成27年度入学生からは毎年総合的な学習の時間を設けたため、今年度の人権教育を基本に、継続的に行えるように構築し直す。</p> </div> <p>イ 障がいのある方の招聘は都合が合わずに実施できなかった。例年と異なり、差別に関する事象については積極的に取り組み、人権に対する取り組みを強化した。特に1年生で部落問題に関する講師を招聘し、3学期に講演を実施する。肯定的な意見は(1)アと同様である。(△)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>年度当初に計画的に講演して頂く講師の選定を行うことで、目標を持って人権教育を行えるようにする。問題生起時だけではなく、事前対策を主に考えていく。</p> </div>
	<p>(2)防災教育の見直し ア 防災訓練の見直し</p>	<p>(2) ア 年2回の防災訓練を通して、防災意識の高揚を図る。1学期には防災訓練を実施し、消防関係者の方に来校頂くことで、防災意識の向上を図る。また、その中で体験活動を適切に入れながら、災害の怖さを認識させる。2学期の880万人訓練では可能な範囲で地域との協同訓練を実施し、地域における高校生の役割を認識させる。</p>	<p>(2) ア 防災意識の5%向上を図ると同時に、地域に貢献しているとする割合(ボランティア等に貢献している)の5%向上を図る。</p>	<p>(2) ア 1学期には消防署員に来校頂き運搬法について実演した。2学期には9月5日に880万人訓練に参加し、避難訓練を行うことで、震災を経験していない生徒にも自然災害の怖さを伝えるきっかけを作ることができた。3年体育科、2年普通科を除き5~10%意識が高まった割合が増加した。(○)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>消防署との連携だけではなく、生徒が主体的に防災を意識できる、生徒の動きのある訓練への方策を模索していく。</p> </div>
	<p>イ 防災に関する体験講話や映像の活用(教職員の危機意識の向上)</p>	<p>イ 教職員に対する防災教育研修を充実し、外部人材を活用しながら、不審者に対する防犯意識の高揚を図る。</p>	<p>イ 生徒に意識の高揚を指導し、生徒の防災意識の5%向上を図る。また、万一の場合に備えるところの教員を増加させる。</p>	<p>イ 不審者に対する講演については、人材が見つからず実施することができなかったが、外部からの侵入者に対する備えについては、職員会議等を通じて伝えることができた。意識向上率は(2)アと同様の数値である。(○)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>不審者に対する意識づけとして、今年度実施できなかった防犯教室の実施を、外部講師を探しながら実現し、意識の高揚を図る。</p> </div>
	<p>ウ HRでの継続的な防災教育の実施</p>	<p>ウ HR計画の中に年に数回防災教育を導入し、防災訓練に加えて、その前後に防災教育を実施し、より身近に考える機会を与え、自らを守る術と命の大切さについての理解を深める。</p>	<p>ウ 間近に迫る大震災に備え、命の大切さや自らを守る術について認識させ、防災意識の5%向上を図る。</p>	<p>ウ 880万人訓練前に震災教育を1時間設け、計画的に地震に遭った際の留意点を確認することができた。意識向上率は上述に準じる。(△)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>意識の高揚までは繋がらなかったが、880万人訓練に参加することで、いざという場合に携帯電話に情報メールが入ることを認識させていく。</p> </div>
<p>(3)教育相談意識の高揚 ア いじめアンケートを活用した考える場の提供</p>	<p>(3) ア 年に2度実施しているいじめアンケートを活用しながら、いじめの実態把握をするとともに、定期的にいじめ防止基本方針の見直しを図り、安心な学校作りを行う。また、外部人材による情報ツールの怖さを認識させる機会を設け、普段意識しない事柄を身近なものに意識させ、教育相談において自ら相談できる体制を構築していく。</p>	<p>(3) ア 教育相談が充実しているとする割合の5%向上を図る。また、情報ツールの怖さを認識できるようになる。</p>	<p>(3) ア 年2回のアンケートを実施し、いじめと疑われるような事象については丁寧な聞き取りと実態把握を行い、実際に生徒に対する指導も行った。また、WEBを通じての被害や誹謗中傷等についても、集会で生徒に伝え、実際の怖さや予期しない事象の発生について自ら身を守る工夫をする指導も行った。また、2・3年普通科を除き3~22%で肯定的意見が向上した。保護者は3年普通科を4~11%向上した。(○)</p>	
<p>イ 体罰といじめの根絶</p>	<p>イ 継続的に体罰に関する研修を行うことで、体罰のない安心した学校生活を送れるようにする。また、体育科を有する学校として、率先して体罰防止に対する取り組みを推進する。人間力の育成を図り、全ての学校の見本となる指導体制を作り上げる。</p>	<p>イ 生徒のモラルを守って行動できる割合を90%以上で維持し、学校事故や問題事象の減少を図る。</p>	<p>イ 教員に対する体罰研修は1学期末に弁護士を招いて行った。言葉の暴力等についても触れて頂き、参加した教員も意識を高めていた。生徒では1年88%、2年86%、3年85%の平均であり、体育科は全てで90%を超えた。また、保護者の意見でも全てにおいて90%以上がモラルを守っているという結果となった。(○)</p>	
<p>ウ モラルある生活の充実</p>	<p>ウ いじめ等に関するアンケートや人権学習を通じて、異なる他者の存在を意識し、自らが生活を正してモラルある生活を送ることで、安心した学校生活を送れる環境を、生徒自らが理解できるようにする。</p>	<p>ウ モラルある生活を送っているという生徒の割合を90%以上で維持する。</p>	<p>ウ いじめアンケートや人権学習についてはリアルタイムでの学びを実施し、同時に1年生から計画的に総合的な学習の時間に組み込むことで、3年間を見通した取り組みへの足掛かりとすることができた。(○)</p>	
<p>(4)広報活動の充実 ア 在校生の広報活動充実</p>	<p>(4) ア 在校生の活動を積極的にHPや生徒会通信を活用して行い、本校の活動を広く地域や保護者に発信する。また、各取組について、できるだけ早期に情報を発信する。行うように努める。</p>	<p>(4) ア 保護者からの情報発信が速やかに行われていると感じられる割合を増加させる。</p>	<p>(4) ア 生徒会通信については、行事毎に校内での発行は行ったが、地域・保護者への発信には至っていない。保護者からは1年76%、2年81%、3年78%で情報発信されていると肯定的であった。(○)</p>	

## 府立摂津高等学校

	<p>イ 中学生に対する広報活動の充実</p> <p>ウ 携帯連絡網の更なる充実</p>	<p>イ 中学生に対して DVD による映像での情報提供を行うことで、よりリアルに本校の取り組みを理解してもらう。また、リーフレット等の見直しや、広報物の見直しを図ることで、より多くの情報を発信できるようにする。中学校説明会や個別相談会の時期及び回数に精査を行うことで、的確かつ中学生のニーズにあった場所で説明会を</p> <p>ウ 在籍する生徒保護者に対する情報発信を精選し、保護者のニーズにあった情報発信を推進する。特に、全ての保護者に知って頂きたい情報について、学校から配付される資料がある場合には、速やかに携帯連絡網を活用できるようにする。</p>	<p>イ 学校説明会等への参加者の1割増を目指す。また、学校説明会に参加して入学した生徒の割合を5%向上させる。</p> <p>ウ 携帯連絡網の認知度を更に向上させ、登録率85%以上を維持できるようにする。</p>	<p>イ 学校説明会における説明 DVD を一新し、分かりやすい内容に変更した。校内での生活、体育科の実習、施設・設備など分野を分けることで、分かりやすい内容となった。また、内容についても好評であった。参加数的には昨年度並みもしくは微増であった。(○)</p> <p>ウ 校内で一斉配付したプリントについてはできるだけリアルタイムで携帯連絡網を活用した。修学旅行でも旅程状況を報告し、出迎えの際の参考にすることができた。現在の登録率は 89.7%となっている。(○)</p>
<p>4 体育科の更なる充実に向けた取り組み</p>	<p>(1) 野外実習の再構築 ア 上級生から学び取る機会の増加</p> <p>イ リーガー研修の増加による自らが育つ機会の提供</p> <p>ウ 高大連携の更なる推進</p> <p>(2) 地域に根付いた本校独自の取り組みの実施 ア 地域参加型イベントの試行実施</p> <p>イ 地域総合型スポーツクラブとの更なる連携</p> <p>ウ 他校体育学科との学びあい共同体の設立</p> <p>(3) 体育部会幹事校としての取り組み ア 近畿幹事校としての情報発信</p> <p>イ 新学習指導要領の先行実施校としての情報発信</p> <p>ウ 全国体育部会と近畿を繋ぐ役割の全う</p>	<p>(1) ア 平成 25 年入学生により体育科生徒が 3 学年揃い、全ての行事を 1 度実施することができた。そのうえで、スポーツVで実施してきた野外実習の在り方を精査し、上級生がより積極的にマネジメントできる資質を養う。また、3 年間実施してきた授業の振り返りを図りながら真の意味で、摂津高校体育科の方向性を確立する。</p> <p>イ スーパーインストラクター事業を筆頭に、上級生と下級生が触れ合う機会を増やすことで、1・2 年生に 3 年生の姿から学ばせる場を設ける。そのため、リーダーとしての資質向上に繋がる機会を平成 25 年度以上に設け、3 年生としての自覚を促す。</p> <p>ウ 生徒マネジメント授業をはじめ、講師招聘をしている高大連携に関し、更に授業における連携を進め、新しい授業開発・指導向上を図る。また、プレゼンテーションの機会を設けることで、企画力・発想力を豊かにする。</p> <p>(2) ア 平成 25 年度に実施したマラソ大会の精査を行い、地域に還元できる取り組みとして発展させる。摂津市役所や大阪府土木事業所、警察署等との連携する機会を増やし、地域から本校体育科主催企画への参加者を募り、体育科におけるイベントへ進化させる。そして、企画・立案を通して、困難に立ち向かう強い力を養う。</p> <p>イ 小中学生対象陸上及び硬式テニス教室を継続発展させるとともに、他競技における可能性を模索し、少しでも地域に生徒力を発信できるような場面を設定する。また、同時に生徒の指導力向上をめざす。</p> <p>ウ 大阪府内における他体育科を有する学校との連携を図ることで、互いの良さを認識しながらも、新しいことに挑戦できる交流を推進する。</p> <p>(3) ア 体育科及び体育コースを有する学校の交流を図るために、近畿幹事校として積極的に情報発信を行う。また、年に 1 度行う近畿体育部会において、本校の取り組みを紹介し、同時によりよい講演等を実施することで、新しい体育科の在り方について意義あるものにする。</p> <p>イ 新学習指導要領を 3 年間実施した成果として、近畿体育部会等を通じて、他校のヒントになるような実践報告を行う。</p> <p>ウ 全国体育部会における情報を的確に近畿部会に伝達し、近畿において全国に歩調を合わせた活動ができるようにする。全国の情報を速やかに伝達し体育科発展に寄与する。</p>	<p>(1) ア 体育科 3 学年が揃ったことで、平成 26 年度を真の意味での出発点とし、体育科に入ってよかったとする割合の 5%向上を図る。</p> <p>イ 自らの進むべき姿を見つめることで、体育科に入学してよかったとする割合の 5%向上をめざす。</p> <p>ウ 体育科授業において、興味・関心を持って参加することができたとする割合の 90%以上を維持する。また、企画・発表の場において審査員より、評価を得るプレゼンテーションの増加を図る。</p> <p>(2) ア 地域から良かったと言ってもらい、積極的に企画に参加してもらおう数を増やす。</p> <p>イ 各企画に関して、参加した人の声から実施してよかったとする割合を 90%以上とする。</p> <p>ウ 競技力向上に向けた取り組み等を提案・企画し、交流及び共同の機会を複数回実施する。</p> <p>(3) ア 近畿体育部会をスムーズに実施し、参加校に意義があったと感じてもらおう。本校体育科としての知名度向上を図る。</p> <p>イ 各校とのつながりが強化され、授業改善・指導力向上につなげる。</p> <p>ウ 全国大会等への参加と共有を図れたと感じられるようにする。</p>	<p>(1) ア 野外実習については、バス代金値上がり等があるため、見直しをしている最中である。昨年度末の卒業生が作り出した道を継続しながらも、より積極的に 3 年生がマネジメントできるようにした。入ってよかったとする割合は特に 2 年で 37%向上し、1・2 年は 85%を超えている。保護者では 90%以上が入学してよかったと回答を頂いている。(○)</p> <p>イ リーガーとしての資質向上に向け、2 年生 3 学期にスーパーインストラクターを招聘し、特別講演を設けた。少しずつ先輩を見て学ぶ機会が増え、先を見つめた行動がとれるようになってきている。入学してよかった割合は全ての学年で向上した。(○)</p> <p>ウ 体育科 3 年生のマネジメント授業については、昨年度のマラソ大会と形を変え、校内実施の駅伝大会へと進化した。また、3 年生全体を一企業と仮想して企画を実施することで、自覚が芽生え、自ら体験・経験することが増え、生き活きと発想力を活かした企画として実施できた。体育の授業に対する平均は 86.9%であったが、体育科生徒に限ってみると、90%を超えていた。(○)</p> <p>(2) ア 次年度に地域に根差した体育科主催イベントにすべく、今年度は実際の取り組み状況を見てもらう機会を設けた。また、3 年生が主体的に仮想会社を設立し、イベント実施を行うことで、困難に立ち向かい、昨年以上に他者と交渉する機会を持つことができた。(○)</p> <p>イ 外部発信の各教室については定着し、参加者からの声も 100%好意的な意見であった。他競技については、バレーボールやバスケットボールで地域参加型大会を実施する際に生徒が協力し、生徒力を高めることができた。(○)</p> <p>ウ 体育科教員支援事業に互いに参加することで、取り組みを共有することができた。また、府下 4 校体育科教員の交流会も初めて実施した。(○)</p> <p>(3) ア 近畿における体育科部会・コース連絡協議会を滞りなく実施し、近年では稀にみる数の参加者を迎えることができた。また、府立・市立の体育科を有する高校所属の体育科教員とも交流する場を設け、意見交換することができた。(◎)</p> <p>イ 全国体育科部会に理事として参加し、本校の取り組みを部会で報告することができた。新しい取り組みとして評価頂いた点もあった。他府県からの視察もあり、互いの情報交換により授業へのヒントとなった。(○)</p> <p>ウ 全国大会に理事として参加し、その状況を近畿部会で報告し、同時に今後の発展のため、アンケート調査を実施しながら、各校の問題を共有する取り組みを行った。(○)</p>